

# 令和8年度 事業計画書

自 令和8年4月1日

至 令和9年3月31日

## 事業計画

令和7年度は、米国でトランプ政権が発足し、国内では高市内閣が誕生するなど、内外情勢が大きく動いた一年となりました。一方、ウクライナ情勢をはじめとする国際的な不安定要因は依然として解消されず、世界全体に不透明感が残っています。その中でも、日本選手の国際舞台での活躍や、大阪・関西万博での未来志向の取り組みなど明るい話題も多く見られました。航空分野では、国内線の収益悪化や円安に伴う費用増、人手不足などの課題に加え、気候変動対策という長期テーマへの対応も求められています。こうした中で、AIなどのデジタル技術を活用した業務効率化や経営改善の動きが加速しています。

このような環境のもと、当協会としては関係先との円滑な連携の上、着実に事業を遂行しました。まず文化事業においては、対面およびオンラインを併用した定例講演会4回の開催ならびに新たに開講した「夏休み航空宇宙教室」において、約1,600名の参加を得ることができ、航空図書館にも多くの来館者にご利用いただきました。航空遺産継承事業においては、新たに2件の重要航空遺産を認定し、選定および保全活動を一層推進することができました。

航空スポーツ分野では、多くの競技会やイベントが開催され、10月にはフィンランドで開催された「国際航空連盟（FAI）総会」に日本代表として参加し、海外の関係者との交流を深めました。また、次世代の航空宇宙人材育成を目的として、関係団体・企業と連携のもと「航空スポーツ教室」や「こども模型飛行機教室」などを開催しました。

令和8年度においても、航空宇宙分野は技術革新を基盤として未来のサービス充実・向上に寄与する重要な領域であり、当協会は定款に掲げる「航空宇宙思想の普及」「航空宇宙文化の醸成」「航空宇宙技術の向上」の実現に向け、着実に取り組みを進めてまいります。

協会の運営に関しては各事業での収入確保、協会への支援拡大、事業の効率化および組織の活性化を図ってまいります。財政基盤である航空会館事業については収益確保に最大限努力する一方で竣工から48年を迎える航空会館に必要な修繕を計画的に進め、残存する借入金の返済を行い、財政健全化に努めます。

110年を超える航空の歴史を守りつつ、航空宇宙関係団体と連携しながら、航空宇宙のさらなる進歩発展に一層寄与できるよう、役職員一同努めてまいります。また、将来を担う小中学生をはじめとした若年層に航空・宇宙への関心を高めてもらえるよう、その魅力の発信にも一層力を入れてまいります。

## 【重点項目】

- ・DX化や効率化、ガバナンス向上に努めることで公益事業として安定した事業展開を行う。
- ・関係先との連携を密に図り、事業の活性化を進めるとともに適宜情報発信を行うことで認知度を向上させる。
- ・老朽化した施設の安全性、機能性を確保しつつ、収支を安定させる。
- ・着実に業務を遂行するために働きやすい職場環境、健全な組織体制を構築する。

各事業の計画につきましては、次の通りです。

## I. 文化事業

### 1. 講演会等の開催

#### (1) 講演会

航空宇宙思想の普及、航空宇宙文化の醸成に資することを目的に講演会を年4回開催する。開催方法は、会場を設けての対面形式とオンライン配信とし、より多くの方々にご参加いただけるようにする。告知は、日本航空技術協会や日本航空宇宙学会等各種関係団体との連携を強化し、講演内容は幅広い層に航空・宇宙産業に興味を持ってもらえるよう充実を図る。

#### (2) 小学生向け 夏休み航空宇宙教室

次世代の航空宇宙人材を育成するため、昨年度に引き続き小学生を対象とした「航空宇宙教室」を開催する。運営にあたっては、前年度同様に関係団体や民間企業と連携を図り、参加者が航空・宇宙への関心と理解をより深められるような体験型プログラムを企画・実施する。

### 2. 航空図書館の運営

#### (1) 利用者ニーズの反映と環境整備

##### ① 配架スペースの拡充として、バックオフィスにてキャビネット6台を追加運用する。

また、閲覧室にもキャビネットやラックを増設し、開架・閉架図書の入替えや配架の工夫を行うことで、図書館内の蔵書を増やすとともに利用者ニーズに即応できる体制を整える。

##### ② 破損した図書の適切な修復・保存方法を確立し、貴重な資料の維持・保全に努める。

#### (2) 利用者の利便性と満足度向上

##### ① 図書館規程の見直しを適宜行うとともに、引き続き蔵書を充実し利用者の要望に応える。

##### ② 時期に応じた企画展示の実施や、専門図書・新刊の紹介を積極的に行う。

##### ③ 利用者アンケートの結果を分析し、所蔵資料の整理および新規購入図書の選定に反映させる。

#### (3) 社会的価値と認知度向上

他の専門図書館や公共図書館、各種団体との連携を深め、航空図書館としての社会的価値および認知度の向上を図る。

- (4) 保管資料の整理とデジタルアーカイブ化  
公益財団法人図書館振興財団の助成事業として、2028年3月までの2カ年計画で実施し、専門業者とともに埼玉県内倉庫で保管している資料を整理する。その中で、特に重要度の高い資料・書籍のデジタル化を行い、重要資料の保存と利活用を促進する。

### 3. 機関誌・図書の刊行

- (1) 機関誌「航空と文化」を年2回発行し、同時に電子書籍としてホームページで公開する。  
(2) 「数字でみる航空 2026」を国土交通省航空局の監修を受けて発行する。

## II.航空遺産継承事業

(航空遺産継承基金事務局業務)

### 1. 航空遺産継承活動の社会的認識の向上

航空遺産継承活動の社会的認識の向上と、同活動への賛同者の増加に努める。

- (1) 基金のホームページで航空遺産継承活動を紹介する。  
(2) 博物館等と連携して航空遺産の展示を行い、活動の社会的認識の向上を図る。  
(3) 航空遺産に関する企画展示、調査、取材等の協力を通じて活動の社会的認識の向上を図る。  
(4) 基金維持のため賛助員増やクラウドファンディング等の新たな方策に取り組む。

### 2. 資料の保存継承

- (1) 散逸の恐れのある資料について保存継承に努める。  
(2) 貴重資料保存に関する研究を国立文化財機構東京文化財研究所等と協力して継続する。

### 3. 資料の調査研究

- (1) 全国各地で保存されている航空遺産の調査を進める。  
(2) 寄贈資料等について専門家の協力を得ながら調査研究を進める。  
(3) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に展示中の飛燕について再度調査と修復に取り組む。

### 4. 資料の公開

- (1) 整理の終わった資料をホームページや「航空と文化」等で公開する。  
(2) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館における「飛燕」の展示を継続する。

## III.航空スポーツ普及・振興事業

### 1. 国際航空連盟(FAI)との連携

FAIの日本代表(NAC:National Airport Control)として、航空スポーツ関連団体と連携し、記録・技能証の管理、日本選手権の公認、国内FAI競技会の承認、日本代表選手団の国際競技会への派遣承認、国内イベント後援などの業務を確実に実施する。

## 2. 空域の安全確保・安全意識向上と環境整備

統括認定団体の状況や課題、特に無人航空機・空飛ぶクルマ等の新たな参入、普及に伴う安全確保ニーズを把握し、関係者との意見交換や官庁との調整を行う。

また、航空スポーツ競技者の技量向上や安全意識の徹底を促し、記録更新や誰もが安心して活動・観戦できる環境づくりを支援する。

## 3. 青少年教育プロジェクトの推進

次世代に空の魅力を伝え、将来の愛好者層拡大を図るため、「航空スポーツ教室」「こども模型飛行機教室」や、FAI が主催するコンテストの国内選考も兼ねた「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」を継続実施する。特に基盤となる「こども模型飛行機教室」は地域の優先順位を設け、質と効率向上を図る。

## 4. 航空スポーツの魅力発信

航空ファン以外にも広く訴求できるプロモーションイベントを企画・実施し、認知度向上と新たな拡大を図る。熊本など震災復興地域での取り組みにも積極的に参画する。

また、ホームページやSNS等と連携し、能動的な情報発信を強化する。

## 5. ガバナンス強化と信頼性の向上

持続可能な航空スポーツの発展の為、日本オリンピック委員会ガバナンスコードに基づき、航空スポーツ分野のガバナンス強化を進め、2027年7月の最終審査に向け課題解決に取り組む。諸活動においては中立性、公平性、透明性を確保し、リスクマネジメント意識を高め、航空スポーツ界の信頼向上に努める。

# IV.表彰・弔慰援護事業

## 1. 航空宇宙に関する文化、科学技術、事業ならびにスポーツ等の発展に著しく寄与した者またはグループを表彰委員会が選考し、9月の「空の日」に表彰式を開催して表彰する。

表彰式では、航空亀齡賞、航空文化賞、航空功績賞、航空特別賞、空の夢賞各受賞者、国際航空連盟 (FAI) 賞受賞者、同連盟が主催するヤングアーティストコンテスト入賞者、同国内予選 (青少年航空宇宙絵画国際コンテスト) における日本航空協会会長賞受賞者、そして航空スポーツ記録樹立者の表彰を併せて行う。

## 2. 表彰委員および推薦団体との緊密な連携を通じ、「近年その進化が目覚ましい新しい分野の発展」に顕著な功績を挙げた個人・グループの発掘を促進し、各団体による推薦活動を適切にサポートする。

## 3. 航空殉職遺児に対し、航空育英会規程により奨学金を給付する。

## V.交流事業

以下の交流事業を計画し、実施する。

1. 「空の日」表彰式に伴う祝賀会の実施

9月の「空の日」に開催する表彰式の受賞者および関係者を対象に、祝賀会を実施する。

2. 新年賀詞交歓会の開催

事務局として主体的に新年賀詞交歓会を企画、運営し、円滑な実施を図る。

3. 航空神社の整備と参拝促進、奉賛運営の支援

航空の安全と発展を継続して祈念するとともに、航空神社の整備や周知を進め、参拝者の増加を図る。併せて、航空神社奉賛会の活動を支援する。

## VI.航空クラブ事業

航空クラブは、当協会の賛助員が参加できる制度に見直したことにより、会員数は徐々に増加している。今後も、会員にとって魅力ある卓話会や見学会等を開催し、さらに協会主催の講演会にも優先して参加いただけるよう、会員サービスの向上に努める。

また、航空会館内のラウンジについては、施設の改修を検討する。

## VII.全国地域航空システム推進協議会事務局業務

全国地域航空システム推進協議会からの負託に応えるよう事務局業務を遂行する。専門委員・研究員による地域航空に関する基礎的かつ総合的な研究調査のサポートを行い、地域間ネットワークの発達に寄与する。

地域航空に関わる事業の企画立案・推進のため、調査研究、国内外の現地調査、研修会、地域航空フォーラム等の開催、広報活動、国への要望活動等の各事業をフォローする。

また、持続可能な協議会活動を進めて行けるよう、収支のバランスの健全化に努め、単年度収支の適正化を行い、持続可能な運営を行う。

## VIII.「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

実行委員会からの負託に応えるべく、引き続き国土交通省航空局とともに事務局業務を遂行する。本実行委員会は、広く国民一般に「空」への理解と関心を高め、航空の発展に寄与することを目的としている。この目的達成のため、空の日記念式典、広報活動、地方イベント、啓発事業、絵画コンテストの支援事業を計画、推進しており、事務局としては、これら各事業が適切に実施されるようフォローするとともに、事業ごとの費用および効果を精査する。

また、事業が継続的に実施できるよう、予算および収支の管理を確実にを行う。

## **IX.国際線発着調整事務局業務**

1. わが国の混雑空港の中で、成田国際空港、東京国際空港(羽田)、関西国際空港、新千歳空港、および福岡空港に就航する国際・国内定期便に関し、各空港に係る諸制約を踏まえつつ、IATA(国際航空運送協会)、ACI(世界空港評議会)および WWACG (世界コーディネーター評議会) の定めるガイドライン等に則って、いずれの航空会社にも属さない第三者機関として、中立性、公平性、透明性を確保しつつ、公正に発着調整業務を遂行する。
2. 2026 年冬期ならびに 2027 年夏期スケジュールに向けた IATA スロット会議 (SC) への対応を適切に進める。また、ロシアによるウクライナ侵略に伴う空域制約の影響、グランドハンドリンク業務に係るリソース不足の影響等による欠航、復便等の調整に当たっては、スロット使用要件の免除方針等を踏まえ適切に調整を行う。
3. より一層の中立性、公平性、透明性を推進するため、規定類の整備や、ホームページ等を通じて最新情報の提供等を積極的に進める。

## **X.航空会館運用事業**

1. テナント賃貸事業  
テナントの高い稼働率を維持しつつ、設備改修やサービスの向上に継続して取り組む。  
また、月極駐車場についても満車で運用を目指し、需要拡大と増収を図る。
2. 貸し会議室事業  
業務委託先と連携し、お客さまの要望に応える形で通信環境等の設備改善を進め、周知にも継続して取り組む。これにより、会議室利用の満足度向上と収入増加を目指す。
3. 建物、設備の維持管理  
航空会館は竣工から48年が経過し、設備を中心に老朽化が進んでいる。関連法規を順守し防災センターと連携して日常的な点検・運用や修理を確実に実施する。  
併せて、協会の今後の展開を踏まえた計画的な保全を進め、建物・設備環境の適正な維持を通じて、テナントおよび貸会議室利用者へのサービスの維持・向上を図る。
4. 航空会館らしさの表現  
日本航空協会所有の建物として、航空遺産や当協会の歴史・取り組みを効果的に展示し「航空会館らしさ」を発信する。

以上